第 120 号

小網代 森と干潟つうしん

モリちゃんとガタくん干潟デビュー

森も干潟も海も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com
URL: http://www.koairo-higata.com
年会費：一般会員￥1000 賛助会員￥5000（入会金不要 7月～6月）
郵便振替： 00260-4-21569 コアジロノモリトヒガタヲマモルカイ

第 106 回 自然観察＆クリーン

アカテガニの放仔観察会

NPO 法人小網代野外活動調整会議が毎年夏に開催するカニパトに駅から参加の皆さんをご案内した。

真夏の炎天下、徒歩で干潟まで移動するのはかなりの負担である。参加者の皆さんへバス利用を提案し、ご了承を頂く。ところがこの日は、三浦市のお祭りで幹線道路は大渋滞。油壷行きのバスはいつ着くか分からないという。Mさんのご教示で小網代までバスの利用は諦め急遽、引橋で下車する。この判断は正しかった。

京急バスでは、夏休み期間中のサービスとして、大人 1 人につき子供 1 人分が無料となる。今回、家族連れの参加者がおり早速利用できた。

畑の隅にスイカが数多く放置してある。よく見るとアライグマに食い荒らされたような特長のある丸い穴が幾つも開いていた。北尾根の日陰に入ると微かに涼風を感じてほっとする。途中の平坦部でジャコウアゲハとナミアゲハを確認する。

参加者の皆さん、カニの放仔は始めてだといい期待が高まる様子が感じられる。幾度見ても紙芝居は面白い、説明する人の個性が溢れている。事前研修としては、他の観察会では見られない最高のものである。

以下「カニパト報告書」から 8 月 14 日の様子を要約する。

写真撮影：浪本、松下

日没時、夕焼けの空にくっきりと富士山のシルエットが浮かび上がった。

潮位がいつもより高い。日没直後から放仔が始まり、かなりの数が放仔していた。見学者の先頭では、100 匹以上の放仔を確認。岩場では数が多く、アカテガニで埋め尽くしていたという。また、アンドンクラゲ、ミズクラゲ、メガロパ、ボラの稚魚採集。日暮れ前に、ハマガニを別荘前で見た等々。

暗い山の端から丸い大きなお月様が昇る。それはじつに童話風の世界で、アカテガニの体内時計の正確さには感心する。来年の夏も恒例として小網代を訪れる家族が増えることを期待したい。

2011 年 8 月 14 日（日）
観察地に入った人数（カニパト隊含む） 81 名
担当スタッフ：仲澤、松原、宮本、祖父川

第 22 回 小網代の森と干潟を守る会総会

日 時 : 2011 年 9 月 4 日（日） 13 時 30 分
於 : 三浦市南下浦市民センター
議 長 : 松下景太氏

第一部

議 長 : 加藤利彦氏

第一号議案 活動報告 2010 年度 小網代の森を守る会・小網代の森と干潟を守る会

第二号議案 2009 年度決算報告、監査報告

第三号議案 会 則

第四号議案 予算案

第五号議案 小網代の森と干潟を守る会 スタッフ原案 （ ）は主たる受け持ち

第六号議案 その他

第二部

記念講演

「湿地回復・干潟保全・支援会員・新しい連携」

NPO 法人小網代野外活動調整会議 代表理事 岸 由二氏

第一号議案 活動報告 2010 年度 小網代の森を守る会・小網代の森と干潟を守る会

2010年

10月 9日ｽﾀｯﾌ会議 通信第114号 印刷発送 横須賀市民活動サポートセンター

10月17日 NPO調整会議の小網代学習ボランティアウオーク支援＆観察会 守る会参加4名

11月 小網代つうしん 葉書 第115号発行 108・109回例会案内発送

11月14日 三浦市緑の市民会議参加1名

11月21日 NPO調整会議の小網代学習ボランティアウオーク支援＆観察会 一般参加3名

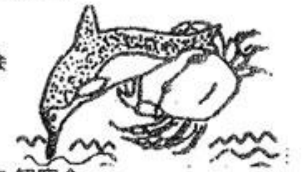
12月 小網代つうしん 葉書 第116号 110・111回例会案内発送

12月 4日 キララ賞贈呈式・記念イベント参加 2名

12月 11日 ｽﾀｯﾌ会議 小網代20年誌編集会議 内容決定 分担決定

12月16日 海老名市環境市民会議案内支援

12月19日 NPOの小網代学習ボランティアウオーク支援＆観察会



2011年

1月 8日 ｽﾀｯﾌ会議 小網代20年誌編集会議

1月16日 NPO調整会議の小網代学習ボランティアウオーク支援＆観察会

1月27日 三浦半島まるごと博物館会議出席

2月9日・16・24・28 3月2・3日 20年誌編集会議(橋・浪本・宮本)

2月19日 ｽﾀｯﾌ会議

2月20日 NPO調整会議の小網代学習ボランティアウオーク支援＆観察会 参加者2名

3月 小網代つうしん 葉書 第117号 112回例会案内発送

3月 6日 (社)ナショナルトラスト協会・総会・全国大会参加 3名

3月 6日 三浦半島まるごと博物館連絡会主宰フォーラム参加1名

3月12日 ｽﾀｯﾌ会議 東日本大震災のため 中止

3月20日 NPO調整会議の小網代学習ボランティアウオーク 中止

3月21日 20年誌発行 500部

NPO法人小網代野外活動調整会議三井物産助成金報告会参加

4月 1日 小網代の森と干潟を守る会に名称変更 銀行・郵便局など手続き完了

4月 9日 スタッフ会議 12名

4月17日 ＮＰＯ法人小網代野外活動調整会議学習ボランテアウオーク支援 2名

4月22日 「小網代の森を未来の子どもたちへ」・小網代つうしん 118号印刷、発送

4月28日三浦半島まるごと博物館会議参加 1名

5月 8日 第21回鶴見川源流祭参加 3名

5月14日 スタッフ会議 12名

5月15日 ＮＰＯ法人小網代野外活動調整会議学習ボランテアウオーク支援 2名

5月27日 横須賀学院中学環境教育 ＮＰＯ支援活動

5月28日 神奈川学園中東部環境教育 ＮＰＯ支援活動

6月 5日 横浜市立東戸塚小環境教育 ＮＰＯ支援活動

6月11日 スタッフ会議 11名

6月19日 神奈川学園高等部環境教育 ＮＰＯ支援活動

6月19日 ＮＰＯ法人小網代野外活動調整会議学習ボランテアウオーク支援 2名

7月 9日 スタッフ会議 12名

7月14日 三浦半島まるごと博物館会議

8月 6日 スタッフ会議 10名

8月14日 森と干潟の会例会 アカテガニ放仔観察 7名参加

第二号議案　2009 年度決算報告、監査報告

2010年度決算報告

2009/7/1-2010/6/30

前期繰越金	1,486,095	支出総額	1,022,887
収入総額	1,075,711	次期繰越金	1,538,919
合　計	2,561,806	合　計	2,561,806

収入内訳		支出内訳	
科　目	決算額	科　目	決算額
前期繰越金	1,486,095	通信費	47,380
会　費	225,000	交通費	31,800
売　上	300,360	みどり基金寄付	300,000
寄付金	214,160	会議費	46,553
小網代の森応援金	335,731	諸手当	130,000
雑収入	460	事務用品費	7,580
		広報費	439,974
		仕入れ	19,600
		次期繰越金	1,538,919
合　計	2,561,806	合　計	2,561,806

以上の通り報告します
2011年7月3日
小網代の森と干潟を守る会
会　計　　竹内 晶子

上記の通り相違ないことを認めます
会計監査　　櫻井秀真

第三号議案　会 則

1. **名　　称**
   本会は「小網代の森と干潟を守る会」という

2. **目　　的**
   本会は森と干潟と海が一つの集水域生態系をなす小網代の森と干潟を守り、未来の子どもたちに残すことを目的とする

3. **会員構成**
   1) 本会は小網代の自然を愛し、守ろうとする会員をもって組織する
   2) 会員は、7 月 1 日から 6 月 30 日までの 1 年間の会費を納めるものとする

4. **活動内容**
   1) 森と干潟での自然観察&クリーン活動の推進
   2) 森と干潟における NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動の支援
   3) 活動報告と自然を紹介する会報の発行
   4) 財団法人かながわトラストみどり財団の普通会員及び小網代支援会員を増やす活動
   5) ラムサール条約湿地の指定を目指す研修、啓発の活動

5. **運営**
   1) 会員からスタッフを募り、スタッフ会議の決議に基づき、目的達成のために必要な活動を遂行する
   2) スタッフ会議の決議は多数決をもって、これを行うこととする

6. **総会**
   本会は年 1 回、総会を開催しなければならない

7. **財政**
   本会は会費、寄付金収入により運営する

8. **その他**
   1) 本会則の発効は 2011 年 9 月 4 日とする
   2) 本会則の改正は総会において、出席者の 3 分の 2 以上の賛成をもって、これを行うことができる

第四号議案　予算案

小網代の森と干潟を守る会

収入内訳		支出内訳	
前期繰越金	1,538,919	通信費	50,000
会費	200,000	交通費	30,000
売上	100,000	事務用品費	10,000
寄付金	200,000	研修費	100,000
小網代の森応援金	300,000	会議費	50,000
		広報費	300,000
		諸手当	100,000
		諸会費	50,000
		仕入れ	20,000
		次期繰越金	1,628,919
合　計	2,338,919	合　計	2,338,919

第五号議案　小網代の森と干潟を守る会　スタッフ原案　(　)は主たる受け持ち

代　表　高橋伸和
副代表　矢部和弘　小倉雅実 /中澤イネ子
企画渉外　岸　由二　欒瀬公成　柳瀬博一　辻　晴一　浪本晴美
会　計　宮本美織
総　務　山本述子　((社) ナショナルトラスト協会)　竹内晶子 (名簿管理)
広　報　松下景太　(写真) 橋美千代 (ＨＰ) 中井由実 (詩作) 橋千尋 (イラスト)
観察会　鈴木清市　野内真理子　菅野哲夫　松原あかね　松下景太　祖父川清治　鈴木カヲル
岩崎敬一　ジボーリン菜穂子　別府史朗 (ＮＰＯ学習ボランテアウオーク担当も兼ねる)
(会計監査　桜井秀真)

第六号議案　その他

終了後 NPO 法人小網代屋が活動調整会議　代表理事　岸由二氏による記念講演

「湿地回復・干潟保全・支援会員・新しい連携」

第 22 回　小網代の森と干潟を守る会総会

はじめに、小網代の森を守る会が 1990 年に発足し、昨年 20 周年誌を発行いたしましたが、本来は今年から会の名称が変わり、会としての機能を考えると第 1 回目の総会となりますが、これまでの経緯もあり、皆様の気持ちを考慮して通算第 22 回目の総会とさせていただきました。こうした節目に多数の本人出席を得て、加藤議長のもと総会が盛大に開催されました。

今回の総会では、会の名称変更、会則改正、今後の守る会が果たす役割を踏まえた活動方針案、予算案、担当スタッフ案などが原案どおり承認されました。

また、役員スタッフ体制としては、新代表に高橋伸和氏、副代表に矢部、小倉、仲澤の 3 氏、会計は宮本美織氏にそれぞれ変わりましたが、そのほかはほぼ従来どおりです。引き続いて、高橋新代表の挨拶がありました。

記念講演 『湿地回復・干潟保全・支援会員・新しい連携』

NPO 法人小網代野外活動調整会議代表・慶応大学教授

岸　由二氏

1. 湿地回復

小網代の森は昨年 2 月完全に保全されましたので、すべて、土地が神奈川県のコントロール下におかれました。ただ、開発と言う意味合いから厳密にはこのままではまだ不十分で、さらに次の二つの縛りが必要です。

その一つが、現在、この森は市街化区域で第 1 種住居専用区域になっているのを市街化調整区域に編入する。二つ目が、首都圏近郊緑地法の特別保護区域にする。

さて、保全は完全に終わったので小網代の森を守る会は、これからの使命を考えて「小網代の森と干潟を守る会」に変更することを私が提案したのです。

かながわトラストみどり財団が小網代の森の保全に本領を発揮するのはこれからだと期待している。

小網代の森はこれまで 40 年近く放置され、ここで保全は完了しましたが残っているのは森の管理です。つまり、今後、保全はされたがごちゃごちゃの自然のまま行く可能性だってある。県はいわゆる小網代の森を都市公園的に残す方法はとらず、中央の谷にただ 1 本の木道と階段を整備するのみのようだ。すべての人はこの森のオープン（H14 年春の予定）後はここしか通れない。

当小網代の森と干潟を守る会も全く例外は許されない。

県として、それでは、山火事や森の湿地の維持などの面で、このまま放っておくわけにはいかず、昨年の小網代対策会議で、「中央の通路が一般公開された後、NPO 法人小網代野外活動調整会議が自力で小網代の湿地回復をすること」と決定されている。

すでに、当 NPO 法人小網代野外活動調整会議は今年の春から、中央の谷沿線の木の伐採を始めていて、みるみる生物相（カワニナ、アユ、イシマキガイなど）の変化等を確認している。

これまで全国規模の助成金を総なめして着実に成果をあげてきたが、さすが保全されるとそうした助成金は今年に入ってすべてアウトとなってしまった。

2. 干潟保全

森は公有地になったので、開発はないが干潟については全く保全されていない。

今後、小網代の干潟を残すことは、地元の企業、漁協、リビエラなどにとって有益な事と考えられる。

こうした時、干潟の保全に失敗するケースとしては、馬鹿な政治運動がおこることです。

NPO 法人小網代野外活動調整会議は、今後、小網代の数 ha の干潟やアマモ場をラムサール条約指定湿地にする活動を実施していきます。

再三申しているように、これから森の中で保全運動をする必要は一切ない。保全をされた森で泥まみれの土木作業をする。

そこで、これから干潟は、今回名称を変更した趣旨をわきまえ「小網代の森と干潟を守る会」が守ってほしい。この点で NPO 法人小網代野外活動調整会議は前面には出ない。NPO は法人なので企業、地元、行政と仲良くやっていかなければならない。守る会なら少しは厳しいことも言えるでしょう。そうした意味で干潟を活用したイベントや観察会をどんどんやってほしい。結果として森も守られることになる。場所も干潟だけではなく、大蔵緑地背後の谷と別荘前ビオトープ湿地周辺を使うことは県の了解がとれている。

3. 支援会員

先に言ったとおり、森が保全された、今、企業からの助成金は期待できない。これから当小網代の森と干潟を守る会で必要な年間数 100 万円の資金は『トラスト支援会員』を増やしていくことに尽きると考えている。これまでも各種イベントやカニパトなど機会あるごとに、強くお願いしてきました。今、まったくタダでこうした森の保全活動に参加してくれる学生や市民は皆無でしょう。今現在、小網代に関しての支援会員は 300 人程度と予想しているが、当面は NPO 理事、インストラクターなど身近な方々からの加入促進から始め、これから 500 人、1000 人と増やしていけば、必要な資金はこれだけで確保可能でしょう。こうした自助努力の仕組みがうまく軌道にのることは、県やトラストみどり財団にとっても相応しい方向といえる。

さらに、今年 6 月にはトラスト支援会員のみを対象にした［小網代干潟観察会］も開催され、その中の 10 人程がファンクラブに参加という動きにまで来ています。

4. 新しい連携

企業等の連携については NPO 法人小網代野外活動調整会議に任せてほしいが、これからは、地元関係者との連携が最大の課題です。

具体的には、地元の漁協、自治会、子供会等との連携による活動です。早速 10 月 15 日（土）には三浦市との協力で子供たちを対象にしたイベントが予定されています。

こうした活動をこれから、フラフラせず、逆に戻らないを目標にどんどん前向きに進めていきたい。

（記録：鈴木清市）

会員の声　第22回総会に寄せて

「20年誌」をざっと読ませていただいただけで、守る会の達成感、高揚感、安堵感を感じ、一大イーポックを思いました。スタッフ一同のご健康をお祈りします。

小柳　康蔵

3.11大震災！！　自然への畏怖。それ以上に恐ろしいのは人災です。
小さな生命を守り続けておられる守る会の20年誌を読み、活字にならないご苦労を想っています。感謝！！

藤野　秀代

会の発足、おめでとうございます。皆様の御活躍の日々がよいものでありますように･･･。

佐藤　京子

保全が出来、神奈川県の自然の財産です。有難いです。会の皆様に感謝です。

北村　和子

新代表からご挨拶

第22回総会を終えて

「小網代の森と干潟を守る会」へ名称変更して最初の総会において承認を受け、仲沢さんから代表を引き継ぎました。

森の全面保全が確定した後のあらたな気持ちで、今回の総会を第1回とする案がありましたが、会を解散したわけではなく、また、これまでの歴史のうえに一歩ずつ活動を継続して、未来のこどもたちに「小網代の森と干潟と海」という完結した集水域を残すという目標の道半ばとの自覚から今回の総会を第22回としました。

会員の皆さんはじめ多くの方々の、森を守ろうとの気持ちで団結して活動した永年の成果が実を結び、保全された森の足元である干潟、アカテガニや多くの生き物のふるさとである海に通じる干潟も守らなくてはとの気持ちから、次のステップへ踏み出すことを新しい名称はうたっています。

「小網代の森と干潟と･････地球･･････････ETC.　を守る会」までこの使命は未来永劫続くのです。

以上の気持ちで新しい代表は楽しく仕事したいと思っております、皆さんご賛同のうえよろしくご協力お願いいたします。

総会終了後、前代表の仲澤さんへ、
プリザーブドフラワーのリースが「ありがとう」の拍手とともに贈呈されました。
長年にわたる会長としての活動、お疲れさまでした。

（写真撮影：柳瀬）

守る会の活動

9 月 4 日　スタッフ会議

9 月 4 日　第 22 回　小網代の森と干潟を守る会総会

ご寄付ありがとうございます

小網代の森応援金

西川次代	大高義彦	蓮尾もと子	石川登美子	成相早苗	柿本湛子
小田島一生	古川太郎	佐藤美枝子	鈴木洋子	窪田建平	山室昌代
柿田川みどりのトラスト	福井すみ代	松林伸子	金木公子	加藤紀子	江尻真
鈴木清	奥津信子	坪田弥乃子	徳田洋子	小柳康蔵	野本哲夫
藤崎洋子	大川須美	飯田久仁子	塩入一弥	山岸正平	北村和子
鈴木慶子	土屋圭子	木内恭子	岸　修	芥川仁美	田中幹人
盛野重信・雅子	江川公明	神山喜久栄	嶋津誠	神奈川学園	山城謙一
福田みどり	柿島京子	高橋宏之	岡見義昭	藤間秀代	上田尚美
柴内朱美	前田信二	大塚敏	久水健史	佐藤高	甘露寺信房
加藤清子	井関眞理	大泉繁子	藤崎英輔	平野晶子	吉永浩三
匿名希望					（敬称略）

寄付金

橋ちひろ　　石川登美子　　佐藤京子　　（敬称略）

スタッフコラム

長野県辰野町のホタル

諏訪湖を水源とする天竜川、辰野町松尾峡のゲンジボタルは東日本では最大級といわれる。清冽な天竜川が町の中央を流れ、高尾山より高い723メートルの町の位置がホタル発生、生育上での地形的環境に恵まれている。

昔はホタルを捕り放題、他所から商いのために来た人たちも大勢いたという。 高度成長期等、水源の諏訪湖が汚染されて一時激変したが、町や地域の人たちの力強い保護活動が実り戦前のような活気のある生息数へ戻ってきた。

今年のホタル祭は 6 月 17 日から 26 日まで開催。町の HP では、前日のホタル発生状況を発表している。6 月 8 日初確認、15 日 1 千匹台、17 日 2 千匹台、19 日 3 千匹台、20 日 4 千匹台、21 日 6,404 匹。

それを確認して 22 日の「あずさ 13 号」で出発。最終でも帰宅は無理なので、岡谷駅前のホテルへ予約を入れた。この夜は 5,558 匹、現地は東京ドーム級の広さの生息地で、分水した水路や枝沢が細かく流れている。

19 時 40 分初見、ピークは 20 時から 21 時。次第にその数が増えて光の大乱舞である。数百匹のホタルが、一斉に光り消えるといった集団同期明滅現象も確認できた。ホタルが光るというのは、交尾の合図であるという。

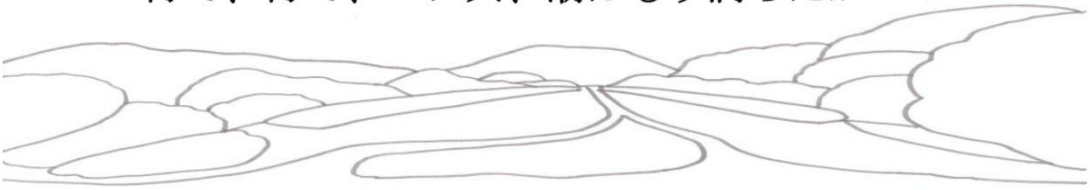
この夜は時々雨、遠く雷鳴といった悪条件、それでもこの数であった。21 日から 27 日迄連日 5 千匹台が続き、7 月 10 日 78 匹を確認して町の公式発表は終了した。2010 年、09 年、08 年 3 年連続してピーク時には 1 万匹以上を確認している。

誰もが必見、感動間違いなしのお勧めホタル観察の一夜であった。

祖父川精治

干潟のゆりかごの小さな住人　その１

待て、待て、マテ貝、潮はもう満ちたかい？



潮が引いている干潟に立つと、プツ、プツ、プツプツという音が、足下から聞こえてきます。干潟が、たくさんの命を育んでいる音なのでしょう。潮の引いた干潟は、まるであたり一面の泥で、一見して地味ですが、このはてしなく広がる泥の海に、それは、たくさんの住人が棲んでいます。

そして、この干潟は、海水の浄化にも、とても大きな役割を果たしています。干潮満潮のサイクルの中で、菌に助けられながら窒素と酸素をやりとりすることによって、自然の浄化作用が生まれるそうです。また、この干潟に棲む二枚貝や小さな生きもの（底生生物）が有機物を分解して、さらに、水をきれいにしてくれています。こうした生きものをねらって、魚や鳥もやってきます。もちろん、アマモも繁茂します。さまざまな生きもののゆりかごです。

二枚貝といえば、アサリやハマグリの、あの扇のような丸い柔らかい輪郭が、すぐ思い浮かびますが、なかにはこんな二枚貝もいます。細長くて四角いマテ貝です。貝殻を干潟で、ごくたまに見つけることができます。その形からカミソリ貝とも呼ばれます。英語でも、発想は同じなのでしょうね。レイザー・クラム (razor clam) とか、ジャックナイフ・クラム (jackknife clam) と呼ばれています。確かに、貝殻は、理髪店で見かけるような剃刀に似ています。

マテ貝の「マテ」にはいろいろ言われがあります。まず、蘇東蔙の活躍した宋代中国で使われた刀の馬刀（マーダオ）から馬刀貝。馬刀は太刀ではなく、小刀ですが、刃に少し幅があります。この馬刀をかなりミニチュアにすると、なるほど、似ています。ちなみに、これは、ちまたのゲームでも登場する、人の丈より大きい斬馬刀とはちがう種類です。

また、真手、あるいは両手と書く場合も。マテ貝を手に持つと、長四角の貝殻の両側の端から、水管と足がそれぞれ、にゅるぅと出てきます。まるで、両手が出てくるようなので、この名前。あてられた漢字は、ほかにもあります。馬蛤貝。中国では、蟶貝とも書かれるようです。

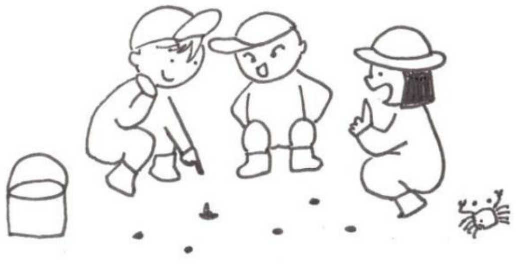
シンガポールなどの南アジアでは、バンブー・クラム (bamboo clam)。貝殻をいくつかまとめて縦にすると、なるほど、竹のようです。マテは、股、

とも考えられています。貝殻を左右に開くと、すべすべときれいな純白色です。これが、人の足を連想したのだとか。

マテ貝の学名は、場所によって異なった名前がつけられています。こういう貝はほかにもたくさんあるそうですね。
日本でのマテ貝の学名は、*Soren grandis* です。 Soren は管、 grandis はグランドピアノなどと使われるように、大きいという意味です。つまり、大きい管。アメリカでは、 *Ensis directus* や *Ensis arcuatus* です。 *Ensis* は、巨人の刀、つまり、巨人オリオンの刀という意味です。うしろの *directus* と *arcuatus* は、それぞれ「まっすぐな」「弓なりの」ですから、巨人オリオンのまっすぐな刀、巨人オリオンの少し曲がった刀、というのが、アメリカでのマテ貝の学名です。

ギリシャ神話の海の神、ポセイドンの息子、オリオンは、眉目秀麗、紅顔の美青年、つまりイケメンだったそうで。冬の夜空で逢えますね。そのオリオン座のオリオンのベルトと呼ばれる三ツ星の下、縦に小さい三ツ星が並んでいるそうです。小三ツ星と呼ぶそうです。赤く光る M42 星雲もそのひとつです。それがオリオンの刀。 肉眼で見るのは、少し厳しいでしょうか。たしかに星座絵などを見ますと、筋骨隆々とした男性が右手に剣をふりあげていて、ベルトの下あたり、もうひとつマテ貝のような剣をさげています。
オリオンの右肩にあるのが、赤く明るく光るペテルギウス。巨人の脇の下という意味の星です。左足の白い星がリゲル。こちらは、巨人の足の意味。日本では、左足の星を源氏星、右肩の星を平家星と呼んでいます。オリオンの右手を伸ばした先にあるのが、こいぬ座のプロキオン。右足の先にあるのがおおいぬ座のシリウス。このプロキオン、シリウス、そしてオリオン座のペテルギウス（平家星）の三つを結んで、冬の大三角形です。もうひとつ。オリオン座のリゲル（源氏星）から時計まわりに、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオン、ふたご座のポルックス、ぎょしゃ座のカペラ、おうし座のアルデバラン。この六つで、冬のダイヤモンド。イケメンにダイヤモンドなんて、まあ、どうしましょ。

さて、日本ではマテ貝の穴に、河童が登場します。泉鏡花の『貝の穴に河童の居る事』です。印旛沼に棲む河童の三郎。渚でひと心地ついていたところへ、東京からきた芸人の三人連れが立ち寄ります。その中のひとり、若い娘に、目を奪われてしまった河童の三郎は、そっと岩陰にかくれてその様子を見ているのですが、そこへ娘が「まて、まて、まて」と、やってくるのです。あわてた河童は近くの穴に隠れるのですが、「間の悪さは、馬蛤（マテ）貝のちょうど隠家」だったわけで。そこをもうひとりの芸人のステッキで突かれてしまいます。河童は「馬蛤（マテ）の穴へ落ちたりとも、空を翔けるは、まだ自在」と言いながら、仕返しを神主さまに頼むのですが、最後には、しゃもじを

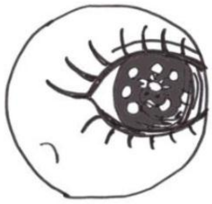


もって芸人が踊りだしてしまい、それで、おしまいになりｘます。この河童のしゃべり方、体が大きくて、滑舌があまりよろしくない芸人さんにそっくりです。「赤沼の三郎でっしゅ。」こんなかんじです。（『泉鏡花集成８』ちくま文庫）

マテ貝がいるかしらと思ってのぞいて、河童がいたら、それはびっくりしましゅよね。しかも、マテ貝の穴は一円玉くらいの大きさでしゅよ。とってもフシギ。

面白や　馬刀の居る穴居らぬ穴　　　　　正岡子規

このマテ貝の穴、干潟に酸素を供給する大事な役割も果たしているそうです。干潟が乾いたときにできるヒビ割れも、同じように酸素の供給に一役かっているそうです。これが海水の浄化にもつながるのですね。



アメリカの西海岸ワシントン州では、マテ貝堀りのためのリクリエーション・ビーチがあります。穴を見つけて掘ってみるのですね。このとき、気をつけないと、割れたマテ貝の貝殻で手を切ってしまうことがあるので、それで、レイザー・クラム（カミソリ貝）なんだ、という説もあります。海が少しでも汚れている日は、閉鎖してしまうのだそうです。お持ち帰りも制限されています。クラミング、と呼ばれています。潮干狩りですね。クラミングは、クラム（clam、二枚貝）からきているので、L の発音です、これを R にしてしまうと、詰め込み教育、つまり、クラミング・スクールで、塾という意味になってしまいます。最近は中国語のブシバン（補習班、つまり台湾の塾）とともに、ジュクも英単語になってきているそうですね。ライスは、L（ノミ）より R（ご飯）がいいですが、こちらは、R より L がいいなあ。

馬刀突の　子の上手なり　つどひ見る　　　　高浜虚子

子供は、こうでなくっちゃね。子供との干潟でのボランティア、楽しみですね。

参考にした本：
栗原康『干潟は生きている』（岩波新書）
『貝の和名』相模貝類同好会
『川柳歳時記』奥田白虎編　（創元社）
Gary L. Williams, *Coastal/Estuarine Fish Habitat Description and Assessment Manual*, (Associates for Fisheries and Oceans Canada,1989).

（ジポーリン菜穂子）

干潟で楽しむ　紅葉の森

第 107 回自然観察&クリーンのお知らせ

晩秋から初冬の小網代の森と干潟には少し遅い紅葉が訪れます。

小網代の森の紅葉を河口の石橋から眺め、宮前の峠を通って白髭神社まで往復、干潟のアシ原の周囲をゆっくりと散策します。森から運ばれたきれいな落ち葉も拾えるかも知れません。アカテガニの冬ごもりも見られるかも。

日　時:12 月 3 日(土)　午前 10 時　三崎口駅前集合
持ち物:弁当、飲み物、観察用具、雨具、防寒具
ご案内:守る会観察会担当スタッフ

小網代詩人

さようなら（ア・デュー）

方向を見失いそうになる　高い藪
突然足下に現れる　急斜面
ぽっかりと空が開く　まん中広場
小さいのに深い森　小網代
何かが呼んでいる　その声にひかれて歩いた

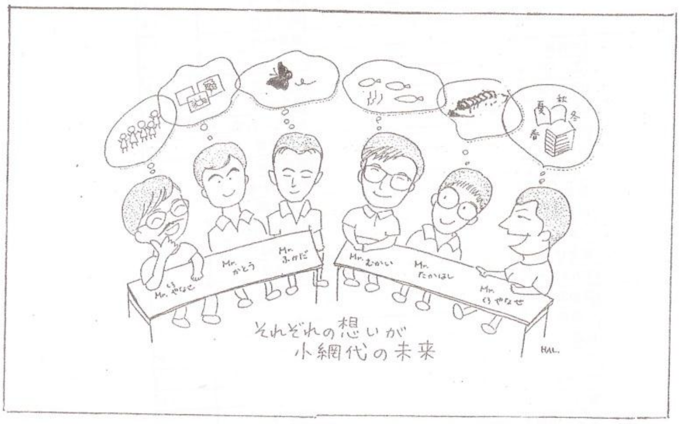
花パトロール　道パトロール
「森を守る」この言葉をかみしめ
小網代のふところ深く
私たちは歩いていった

だから　森が保全された今
皆で　さようなら（ア・デュー）と言おう　また会いましょう（オ・ルボワール）ではなく
この次に会うのは神さまのところで

私たちは干潟に降りるから
森から注がれる流れが
どんなに豊かな水辺をつくっているか
新しい発見をするために
しっかりと　森と干潟をつないでいくために
これからも
アカテガニと一緒に歩もう

新秋

ふりあおぐ　つくつくほうしの声
その上に伸びるのは　群れなすイワシの雲

小網代に新しい季節がきた

森から干潟へ　新しい風が吹いている
そして海へ　その彼方へ
竜が　大きく眼を見開いた